



# 週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。  
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシは続落、大豆は反発

発行日 : 2020/7/15



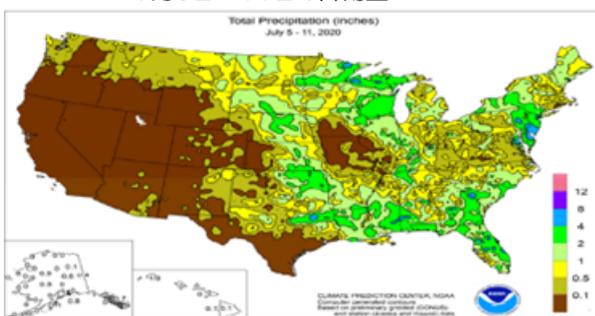
14日のシカゴトウモロコシ9月限は▲2.75セントの326.00セント。取引レンジは325.75セント～332.00セント。米農務省（USDA）は、中国が1日の買い付け量としては過去最大となる176万2000トンの米国産トウモロコシを購入したと発表したことを受けて、一時332セントの高値まで上昇したが、中国の成約は一時的なものとの見方から市場の反応は限定的だった。前日のシカゴ日中取引終了後に米農務省（USDA）が発表した作柄報告では良以上の割合が引き下げられたものの、今週の米中西部産地が生育に適した天候になるとの予想されたことから、豊作見通しが強まり前日の安値を割り込んで325.75セントの安値を付けた。その後もほぼ買い戻されることなく安値近くで引けている。

14日のシカゴ大豆9月限は+4.00セントの878.00セント。取引レンジは872.75セント～882.50セント。前日のシカゴ日中取引終了後に米農務省（USDA）が発表した作柄報告で、「優」「良」の占める割合が前週から低下したことを受けて反発した。中国が12万9000トンの米国産大豆を購入したと発表したことを受けて、一時882.50セントの高値まで上昇したが、米産地で今週は生育に適した天候になると予測されていることに加え、シカゴトウモロコシが反落したことから上げ幅を縮小した。

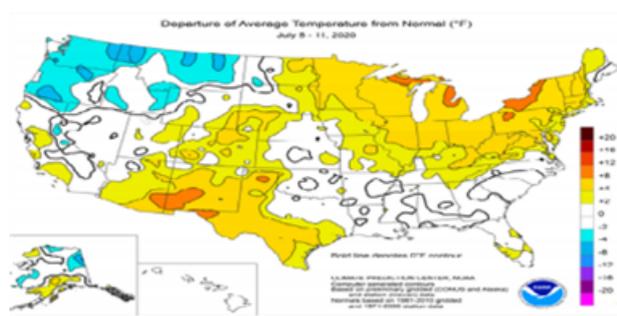
14日のシカゴ小麦9月限は+2.00セントの526.75セント。取引レンジは522.75セント～533.50セント。世界最大の小麦輸出国であるロシアの生産量が引き下げられるとの見通しから買いが優勢となった。同国南部の収穫量が減少する見通し。

6月14日～21日の週の米国の天候 by Weekly Weather and Crop Bulletin of USDA

7月5日～11日の降雨量



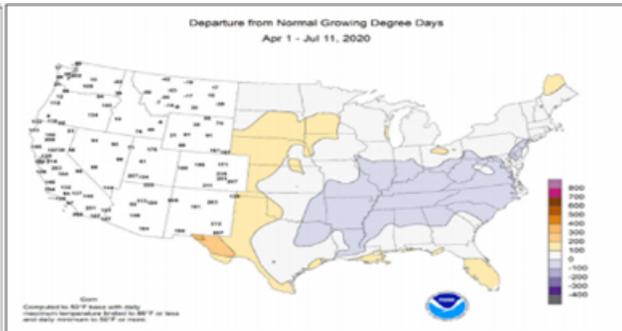
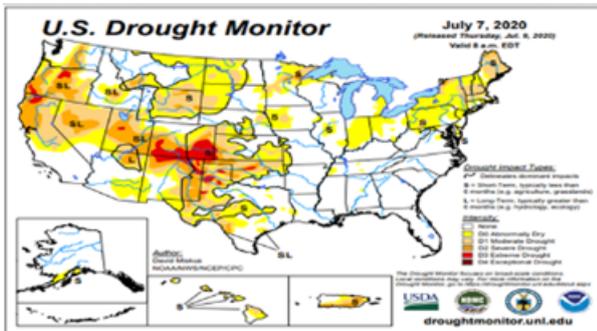
7月5日～11日の気温の平年比





7月7日の干ばつモニター

4月1日~7月11日までの生育平年



熱帯低気圧Fayが7月10日ニュージャージーに上陸し、大西洋岸では大雨を伴う風雨となったが、概して降雨量は比較的少なかった。乾燥していた地域に雨が降ったため、洪水にまではならなかった。そのおかげで中西部には高温乾燥に弱い作物にとっては恵の雨となっている。全米の48%の大豆は開花を7月12日までに終え、トウモロコシの29%はシルキング段階に入っている。ただ、コーンベルト東部の一部とミシシッピ渓谷の中央部が乾燥しており、降雨はあるものの少なく、中央部から南部高原では気温が高い。アリゾナ州や西テキサス州では週の後半にかけて気温が上昇し、五大湖周辺でも平年より3~6℃高い気温であった。

Crop Progress

トウモロコシ				18州
Silking	前年度	2020年度	過去5年平均	
6月21日	1%	2%	2%	
6月28日	2%	4%	7%	
7月5日	7%	10%	16%	
7月12日	14%	29%	32%	

トウモロコシ				18州
Dough	前年度	2020年度	過去5年平均	
7月12日	2%	3%	3%	

大豆				18州
Blooming	前年度	2020年度	過去5年平均	
6月21日	1%	5%	5%	
6月28日	2%	14%	11%	
7月5日	8%	31%	24%	
7月12日	19%	48%	40%	

冬小麦				18州
Harvested	前年度	2020年度	過去5年平均	
5月31日	1%	3%	2%	
6月7日	3%	7%	7%	
6月14日	7%	15%	15%	
6月21日	13%	29%	26%	
6月28日	26%	41%	41%	
7月5日	42%	56%	55%	
7月12日	54%	68%	66%	

トウモロコシ						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月24日	1%	4%	25%	58%	12%	70%
5月31日	1%	3%	21%	60%	15%	75%
6月7日	1%	3%	21%	60%	15%	75%
6月14日	1%	4%	24%	56%	15%	71%
6月21日	1%	4%	24%	56%	15%	71%
6月28日	1%	4%	22%	57%	16%	73%
7月5日	1%	4%	22%	57%	16%	73%
7月12日	2%	6%	23%	52%	17%	69%
前年度	3%	9%	30%	48%	10%	58%

大豆				18州
Setting Pods	前年度	2020年度	過去5年平均	
7月5日	1%	2%	4%	
7月12日	3%	11%	10%	

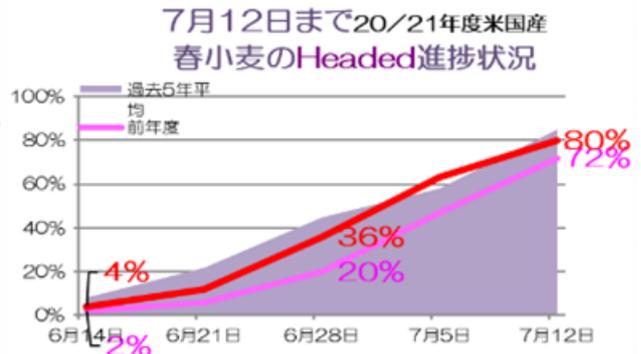
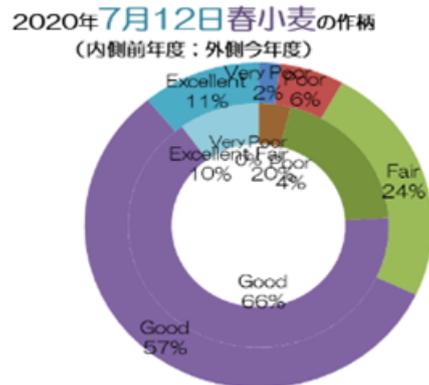
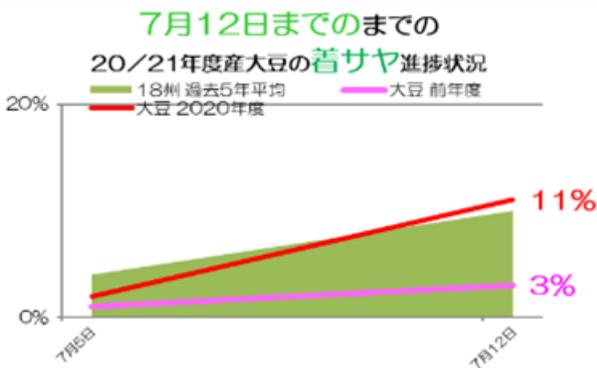
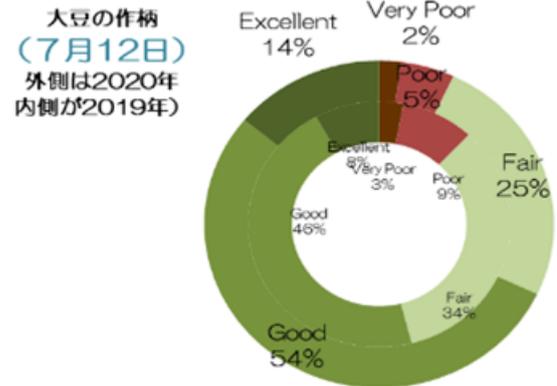
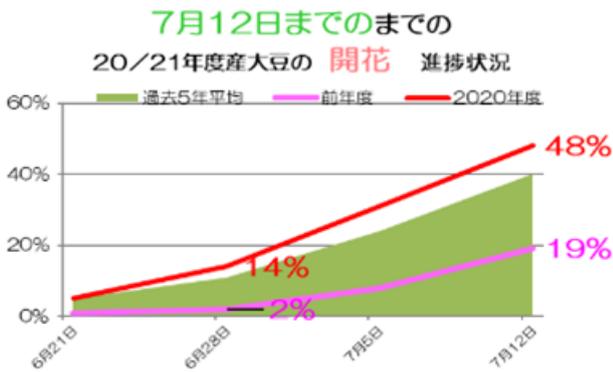
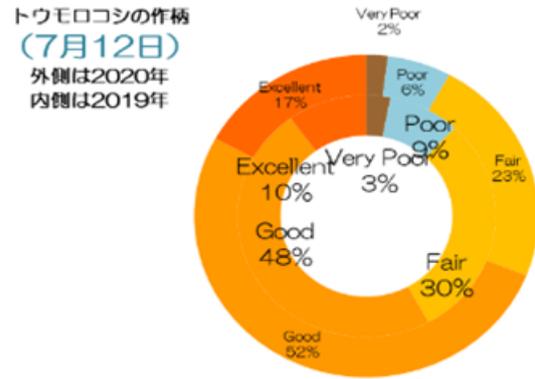
大豆						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
6月21日	1%	4%	25%	58%	12%	70%
6月28日	1%	4%	24%	58%	13%	71%
7月5日	1%	4%	24%	57%	14%	71%
7月12日	2%	5%	25%	54%	14%	68%
前年度	3%	9%	34%	46%	8%	54%

春小麦				18州
Headed	前年度	2020年度	過去5年平均	
6月21日	6%	12%	22%	
6月28日	20%	36%	45%	
7月5日	47%	63%	58%	
7月12日	72%	80%	85%	

春小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
6月7日	0%	1%	17%	72%	10%	82%
6月14日	0%	2%	17%	73%	8%	81%
6月21日	1%	3%	21%	68%	7%	75%
6月28日	1%	5%	25%	60%	9%	69%
7月5日	6%	11%	32%	41%	10%	51%
7月12日	2%	6%	24%	57%	11%	68%
前年度	0%	4%	20%	66%	10%	76%



7月12日の米国産トウモロコシのSilkingは29%完了（前年は14%、過去5年平均は32%） Doughが3%（前年は2%、過去5年平均は3%）トウモロコシの作柄は優と良が69%、大豆は、Bloomingが48%と完了（前年は19%、過去5年平均は40%） Setting Podsが11%完了、（前年は3%、過去5年平均は10%）作柄は優と良が68%。冬小麦の収穫は68%完了（前年は54%、過去5年平均は66%）春小麦のHeadedは80%完了（前年は72%、過去5年平均は85%）作柄は優と良が68%。（前年は76%）





## ブラジルのトウモロコシ需給 by USDA Gain Report 2020年7月6日号

### 20/21年度の生産量は1億トン

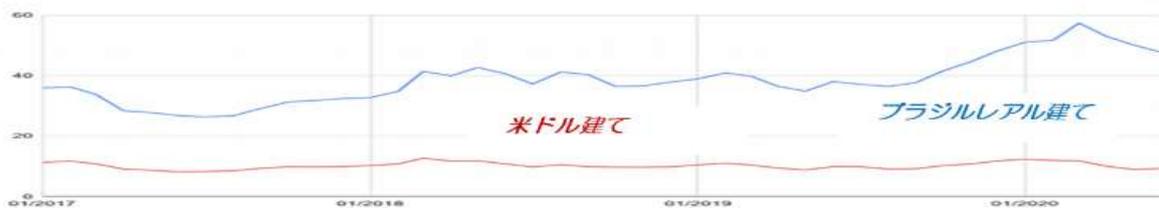
千トン・千ヘクタール	16/17年度	前年比	17/18年度	前年比	18/19年度	前年比	19/20年度	前年比	20/21年度	前年比
収穫面積	17,600	+1,600	16,600	▲1,000	17,500	+900	18,450	+950	18,700	+0
期初在庫	6,769	▲1,073	14,019	+7,250	9,280	▲4,739	5,124	▲4,156	4,924	▲200
生産	98,500	+31,500	82,000	▲16,500	101,000	+19,000	100,000	▲1,000	103,000	+3,000
輸入(穀物年度)	854	▲2,569	915	+61	1,659	+744	1,300	▲359	1,500	+200
輸入(暦年)	2,439	+873	943	▲1,496	1,189	+246	1,300	+111	1,500	+200
供給合計	106,123	+27,858	96,934	▲9,189	111,939	+15,005	106,424	▲5,515	109,424	+3,000
輸出(穀物年度)	31,604	+17,608	24,341	▲7,263	39,851	+15,510	33,500	▲6,351	36,000	+2,500
輸出(暦年)	19,794	▲15,588	25,115	+5,321	39,078	+13,963	35,000	▲4,078	36,000	+1,000
飼料用その他	51,000	+2,000	54,000	+3,000	57,000	+3,000	57,750	+750	58,000	+250
食料用需要	9,500	+1,000	9,500	+0	10,000	+500	10,250	+250	11,000	+750
国内需要合計	60,500	+3,000	63,500	+3,000	67,000	+3,500	68,000	+1,000	69,000	+1,000
期末在庫	14,019	+7,250	9,093	▲4,926	5,124	▲3,969	4,924	▲200	4,424	▲500
期末在庫率	15.2%	+5.8%	10.4%	▲4.9%	4.8%	▲5.5%	4.8%	▲0.0%	4.2%	▲0.6%
生産+輸入(①)	99,354	+28,931	82,915	▲16,439	102,659	+19,744	101,300	▲1,359	104,500	+3,200
国内消費+輸出(②)	92,104	+20,608	87,841	▲4,263	106,078	+18,237	103,000	▲3,078	105,000	+2,000
需給バランス(①-②)	+7,250	+8,323	▲4,926	▲12,176	▲3,419	+1,507	▲1,700	+1,719	+1,719	+3,419
単収	5,5966		4,9398		5,7714		5,4201		5,5080	

### ブラジル産トウモロコシのリアル建て国内価格は過去最高値

2019/20年度(2020年3月から2021年2月)のブラジル産トウモロコシの生産量は、1億トンと見込まれている。南部のリオグランデ・ド・スル地方やパラナ州において乾燥した天候が続いて単収が減少したが、一方で、マトグロッソ州中西部の作付け面積が拡大した。その結果19/20年度のブラジルにおけるトウモロコシの作付け面積は35万ヘクタール増加して、1845万ヘクタールとなった。これは、前年比+95万ヘクタール増、+5.4%増であった。家禽や家畜向けの国内肥料需要が増加し、国内トウモロコシ価格が上昇したことが背景にある。また、トウモロコシ由来のエタノール需要も堅調だった。ブラジルレアルの通貨安によりリアル建て手取り金額が多くなり、2019年の輸出も好調だったため、国内在庫は減少し、ブラジル国内のトウモロコシ価格はここ数ヶ月過去最高値となっている。

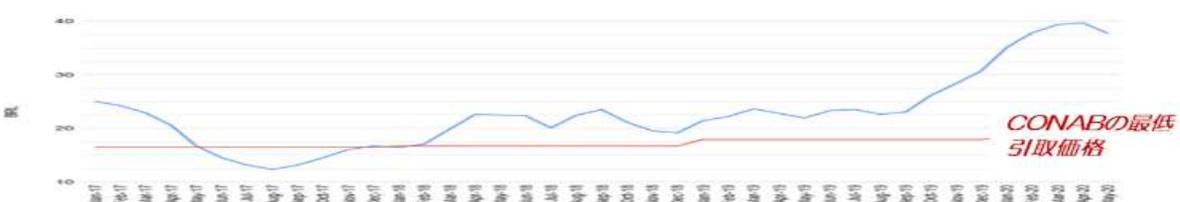
2020/21年度(2021年3月から2022年2月)のブラジル産トウモロコシの生産量は、前年比+3%増の1億300万トンとみ込まれている。作付け面積は+1.4%増の1870万ヘクタールとなると予想されている。

ブエノスアイレス穀物取引所におけるブラジル国内トウモロコシ価格(60キロ入り袋当たり)



Date Source: University of Sao Paulo Center for Advanced Studies in Applied Economics (CEPEA)

マトグロッソ州におけるトウモロコシ価格(60キロ入り袋当たり)



Date Source: CONAB



### 19/20年度は南部リオグランデ・ド・スル州で干ばつ発生し生産量が3分の1に減少

トウモロコシの一期作目は通常9月から12月にかけて作付けされ、地域によって異なるが、1月～5月にかけて収穫される。19/20年度の主要生産地の南部ブラジルで乾燥した天候となったため、単収に大きな影響が出た。ことにリオグランデドスル州の南部一帯では乾燥気候の影響がひどく、18/19年度の3分の1の量しか収穫ができなかった。同州は一期作目としては最大の生産州であるが、12月から2月にかけて乾燥した天候が続き、作付面積が+5%増えたにもかかわらず単収が悪化したため、同州の生産量は3割以上の減収となった。ことに9月にトウモロコシを作付けした農家は、開花から受粉して結実する季節の12月に、乾燥した天候と高温に悩まされた。こうした農家は予定していた収穫量の35%しか収穫できなかった。

### 19/20年度は南部リオグランデ・ド・スル州で干ばつ発生し生産量が3分の1に減少

また二期作目のいわゆるSafrinha（サフリンハ）のトウモロコシの出来は様々だった。6月末時点で二期作目の収穫は15%ほど完了している。最大の生産州であるMato Grosso州では、6月26日時点で30%以上完了しているとMato Grosso Institute of Agricultural Economics (IMEA) は述べている。これは昨年同時期に比べて▲10%減であるが、それでも過去5年平均よりは早いペースとなっている。今年は、ブラジル国内トウモロコシ価格が上昇しているため、生産者はサフリンハのトウモロコシ作付け面積を増やそうとしている。ただ、収穫が進みにつれ価格は下落し始めている。上記グラフで見られるように、過去最高値を付けたのはブラジルリアル安であったことが一つの大きな要因となっている。

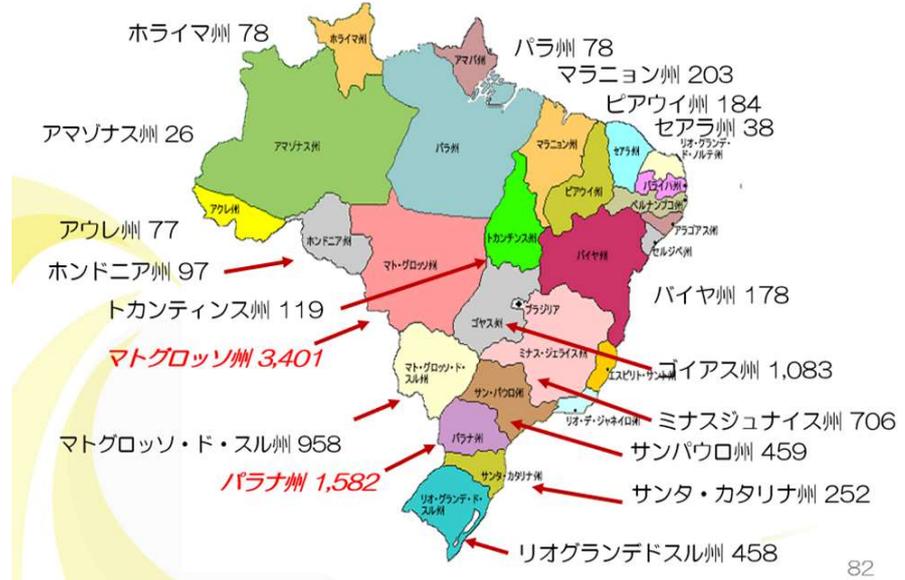
いずれにせよ、サフリンハのトウモロコシ作付け面積は拡大中でブラジル全体では100万ヘクタールほど増加している。Mato Grosso州はブラジル全体の3分の1ほどのトウモロコシを生産しているが、同州のサフリンハトウモロコシの作付け面積は、+45万ヘクタール増加して519万ヘクタールとなったとIMEAは述べている。

同州のかつてない高値とブラジル国内の家禽や家畜用飼料需要の増大、及び2019年の好調な輸出によりトウモロコシ在庫が減少したことがその背景にある。

綿花の価格が世界的に新型コロナウイルスの影響を受けて世界的に下落したため、多くの農家が綿花の代わりにサフリンハのトウモロコシを作付けしている。

## ブラジルのトウモロコシ産地

### ・ 2019/20年度のブラジルのトウモロコシ産地（万トン）



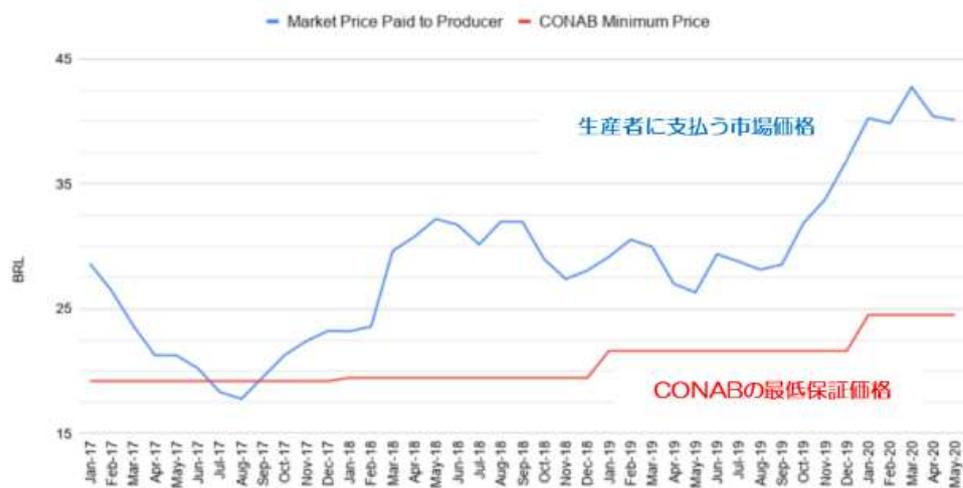
出典：大阪堂島商品取引所『トウモロコシの基礎知識』より  
(作成：株式会社コモディティーインテリジェンス)



## 2番目に生産量が多いパラナ州もサフリンハに乾燥気候が影響

パラナ州は二番目に大きなトウモロコシの生産州であり、18/19年度は全体の16%を占めた。大まかに言って南部ブラジルのトウモロコシ生産量は8割がサフリンハによるものである。大半の農家は一期作目として大豆を生産する。19/20年度には、乾燥した天候の影響を受けて大豆の収穫時期が遅れた。そのためパラナ州のサフリンハの作付けも遅れた。高価格に触発されて多くの農家は2月中旬までサフリンハの作付けを続けたが、他の農家は二期作目を小麦の作付けに換えた。ブラジル国内の小麦価格もこの数ヶ月上昇している。同州では3月から5月の降雨量が少なかったためサフリンハのトウモロコシの生育に影響が出ている。同州のサフリンハのトウモロコシの収穫はまだ始まったばかりだが、(6月22日時点で4%の進捗率)単収は前年に対して▲15%低下しヘクタール当たり5トンとなっているとParana Department of Rural Economy (DERAL) は述べている。作柄は44%のサフリンハは旅行樽と言う。パラナ州のサフリンハのトウモロコシ生産量は1,130万トンと2019年の1,350万トンより減少する見込み。

パラナ州のトウモロコシ価格



Data Source: CONAB

## 2番目に生産量が多いパラナ州もサフリンハに乾燥気候が影響

パラナ州の北のMato Grosso do Sul州もサフリンハの生育期に乾燥した天候となった。同州はブラジル第4位のトウモロコシ生産州である。大豆の収穫が遅れたことにより、サフリンハのトウモロコシの作付けは大きく遅れた。そのため、雨季が終わったころにサフリンハの生育期をいつもより3週間ほど遅れて迎えてしまい、乾燥気候にさらされることになった。Mato Grosso do Sul Corn and Soy Producers Association によれば、同州のいくつかの地域で18/19年度の単収や生産量と比べて大きく落ち込み、全体で▲100万トンの減産になる見込み。

## ブラジル北部の3期作目

2019年後半、ブラジルの農業統計機関the National Food Supply Company (通称CONAB) はブラジルのトウモロコシの3期作目を定義した。これはブラジル北東部の州Sergipe州やAlagoas州、及びBahia州の北部で生産されるもので、ブラジルでは最も遅くに作付けされるものである。そのため、生産サイクルは米国と似通っている。(5月~6月かけて作付けし、10月~11月に収穫する)以前は2期作目のサフリンハの一部としてとらえられていたが、生産や収穫時期が大きく異なるため、CONABはこれを別建てにすると決めた。3期作目のトウモロコシは、ブラジル全体の生産量の1%を占め、作付面積では2%を占める。この3期作目は降雨量の状態によって、単収や生産量にばらつきがある。19/20年度は130万トンとCONABは見込んでいる。

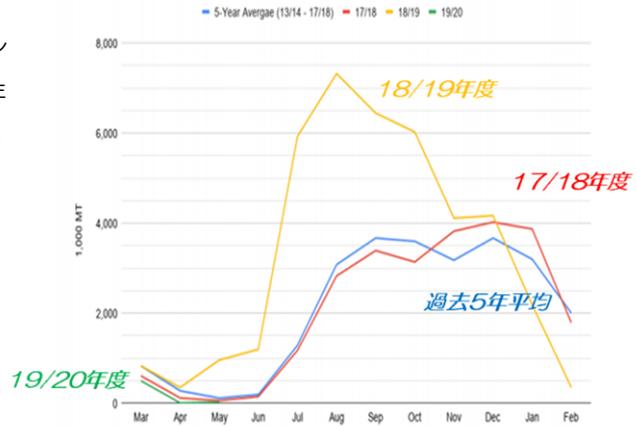
## ブラジルのトウモロコシの貿易：輸出

19/20年度のブラジルからの輸出量は前年比▲16%減の3,350万トンと見込まれている。18/19年度は過去最大の4,000万トンだった。そのため在庫は減少したが、国内の家禽や家畜用の飼料需要が増加し、国内消費量が増加する見込みである。20/21年度は3,600万トンの輸出量と予測している。生産が増え、新型コロナウイルスの蔓延でブラジル経済にダメージが生じ、ブラジルレアルが引き続き安いことに助けられると見ている。



ブラジルでは新型コロナウイルスの影響で急速に失業率が高まっており、年初からブラジルレアルは▲30%減価した。そのため海外市場から見た場合ブラジル製品の価格的な魅力が増している。トウモロコシの輸出業者は19/20年度の先物輸出契約を急いで締結している。IMEAのデータによれば、6月初め時点でMato Grosso州のトウモロコシの85%が販売されており、この時期の過去5年平均の70%を大幅に上回っている。

ブラジルの月間トウモロコシ輸出量



Data Source: Brazilian Foreign Trade Secretariat (SECEX)

### ブラジルのトウモロコシの貿易： 輸入

ブラジルの19/20年度のトウモロコシ輸入量は前年比▲20%減の130万トンと見込まれている。20/21年度は150万トンと予想。

ここ数年の一期作目のトウモロコシ生産量が減少傾向にあり、南部ブラジルの家禽・家畜生産農家の飼料需要の増大にアンバランスが生じている。過去数十年で、ブラジルのトウモロコシ主要生産地はブラジル中部に移動してきている。家禽や家畜の生産地域は南部に多いため、トウモロコシの地域的なギャップが生じている。例えば、ブラジル最大の養鶏業・養豚業地域である南部のSanta Catarina州ではそうした産業は州の西部にある。同州では必要とするトウモロコシの量の半分しか州内で生産できていない。そのため、同州の養鶏・養豚業者は西のパラグアイからトウモロコシを輸入している。その方がブラジル中部のMato Grosso州などからトウモロコシを運ぶより運賃が安く済む。

### ブラジルのトウモロコシの消費量

19/20年度のブラジル国内のトウモロコシ需要は養鶏や養豚生産の伸びやエタノール需要を見て、前年比+100万トン増の6,800万トンと見ている。エタノールは新型コロナウイルスの影響を受けて需要が少し落ち込んでいる。20/21年度の国内需要は+100万トン増の6,900万トンと予想している。引き続き養鶏や養豚用の飼料需要の増加が見込まれ、また中国などからの輸出の引き合いも多いことを見込んでいる。

ブラジルのトウモロコシ需要は養鶏、養豚、及びエタノール需要の増大により、この20年で約2倍になった。ブラジルは世界最大の鶏肉の輸出国に、世界第4位の豚肉の輸出国になっている。こうした業界では毎年大量のトウモロコシを使っている。穀物需要の6割は飼料用となっている。2019年暦年の鶏肉と豚肉輸出量は主にアフリカ豚熱による被害にあった中国向けに大きく増加した。その傾向は2020年も続いている。鶏肉生産量は+1%増となり、豚肉は+2%増と見込まれている。豚肉用のトウモロコシ飼料需要は鶏肉用の半分だがそれでも大きくなっている。

19/20年度の食品・種子・工業用需要は前年から少し増加して、1,025万トンと見込まれる。エタノールの増加量は小さいが、近年急速に増大している産業である。ただ、ブラジルを含めた世界的な新型コロナウイルスの蔓延により、今年の燃料需要は減少すると見込まれている。にもかかわらず、業界は今年20億~25億リッターの設備納涼区を追加しようとしている。これは600万トンのトウモロコシの新規需要となる。Social Distancingにより消費量が落ちるとはいえ、エタノール価格が下落して、ここ数週間ブラジルではゆっくりと元の生活に戻りつつある。ブラジルのエタノール生産者は新たな二酸化炭素排出量規制RenovaBioを見込んで、生産能力の増強を図っている。

### 今後の予想

ブラジル中部から南部にかけて1月~2月かけて乾燥した気候が続いてトウモロコシの生産に影響が出て、また大豆の収穫が遅れてことによってブラジルのトウモロコシの4分の3を占めるサフリンハ（二期作目）の生産に支障を来す州もあったようで、ブラジル国内のトウモロコシ価格は過去最高値になったようだが、世界的なトウモロコシ価格にはそれほど影響を与えていない。ブラジルでは3期作目までであるようだ。南部では真冬に当たる7月~8月にかけて生育し、春先の10月頃に収穫される。その頃南部では1期作目が作付けされている。ブラジルが広いことがなかなかイメージできないが、一言でブラジル産といってもいろいろあるということであろう。しかし、今やブラジルは米国、中国に次いで世界第3位の生産国でこの3カ国で世界のトウモロコシの72%を生産している。いずれ、トウモロコシ価格は米国の天候のみだけでは動かなくなるであろう。



## ご案内

### You Tubeで金や原油の動画解説中

毎週月曜日午後8時 Gold TV netにて金やプラチナ・原油の解説をYou Tubeの動画で近藤 雅世と小針秀夫が行っております。サイトは『Gold TV net』検索ください。 <https://gold-tv.net/>

### 日本経済新聞電子版で商品投資の解説を6月1日より毎月1回半年間解説

6月1日より毎月月初に2章ずつ合計8章の文章を掲載中です。  
 サイトは日経電子版の『マーケット』の中の『商品』欄の右側にある『PR』欄の『一覧はこちら』から一番下にある『大阪取引所』の『商品取引入門』にあります。  
[https://ps.nikkei.co.jp/ose2020/index.html?n\\_cid=P\\_SDB0021](https://ps.nikkei.co.jp/ose2020/index.html?n_cid=P_SDB0021)



商品取引入門  
 第2章 商品取引の種類と世界の商品先物取引  
 2020年06月01日（月）



商品取引入門  
 第1章 商品取引の特徴  
 2020年06月01日（月）



### 大阪商品取引所の北浜投資塾で『金の基礎知識』の動画解説放映中

JPX日本取引所グループの『大阪取引所』の『北浜投資塾』の『先物・オプション』の『その他・すべての戦略動画はこちら』の中で『金の基礎知識』の動画を放映中です。

全部で12章ありますが、現在は右の6章のみ掲載中です。 [https://www.jpx.co.jp/ose-toshijuku/futures\\_option/list.html](https://www.jpx.co.jp/ose-toshijuku/futures_option/list.html)



掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



株式会社コモディティ インテリジェンス4東京都中央区日本橋蛸割町1丁目11-3-310  
 社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692  
 メールアドレス：kondo@commi.cc